

## 5 考察

### (1) 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

【参照】「2 調査結果の解釈等に関する留意事項」及び「3 教科（国語、算数・数学）に関する調査結果」

|        |     | 国 語                                                                                                                                                                                             | 算 数                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識及び技能 | 小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の情報を関係付ける方法や図などを通して語句同士の関係を表す方法を理解し、使うことができる児童が多いと考えられます。</li> <li>● 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数量の関係を□などの記号を用いた式で表すことができる児童が多いと考えられます。</li> <li>○ 図形の見取図について理解し、かくことができる児童が多いと考えられます。</li> <li>● 除数が小数である場合の除法を計算することに課題があります。</li> </ul> |
|        |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的や意図に応じて、集めた材料を分けたり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる児童が多いと考えられます。</li> <li>● 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題があります。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 二つの数量の関係に着目し、道のりが等しい場合など、場面に応じて速さの比べ方を考察することに課題があります。</li> </ul>                                                                           |
| 知識及び技能 | 中学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。</li> <li>□ 新出漢字の読み方や意味を考え、文章の中での正しい使い方を身に付ける活動を取り入れる。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 整数の場合の計算の意味や仕方を活用して計算できるようにするために、筆算による計算の仕方を形式的に指導するのではなく、例を通して除法の性質を活用しながら理解を深める活動を取り入れる。</li> </ul>                                      |
|        |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同していないかを確かめたりする場面を設定する。</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、求める学習活動を取り入れる。</li> <li>□ 道のりが等しい場合、かかった時間で速さを比べられることを見出し、自分の言葉で説明する場面を設定する。</li> </ul>          |

### 充実・改善のヒント

## 国 語

## 数 学

### 知識及び技能

- 具体と抽象など情報と情報との関係を理解することについては、問題形式等の違いを考慮する必要がありますが、改善の状況にあると考えられます。
- 文脈に即して言葉の意味を捉え、漢字を正しく書くことに課題があります。

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる生徒が多いと考えられます。
- 図形の性質を考える場面において、角の大きさに着目して事象を観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題があると考えられます。

## 中学校

### 思考力、判断力、表現力等

- 物語を創作する場面において、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、自分が伝えたいことを明確にすることができる生徒が多いと考えられます。
- 説明的な文章に掲載されている図表や写真が、文章のどの部分と関連しているのかを確認し、書き手の伝えたい内容を正確に読み取ることに引き続き課題があると考えられます。

- 一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに、引き続き課題があると考えられます。

### 知識及び技能

- 身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結び付けて理解する学習活動を取り入れる。
- 日常の学習の中で漢字を使って文章を書くよう働きかけたり、自分が書いた文章を読み直して漢字に直したりする活動を取り入れる。

- 図形の性質を考察する場面において、観察や操作、実験などを通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現する活動を取り入れる。
- ICTを用いて図形を操作し、成り立つと予想される図形の性質を見いだす活動を取り入れる。

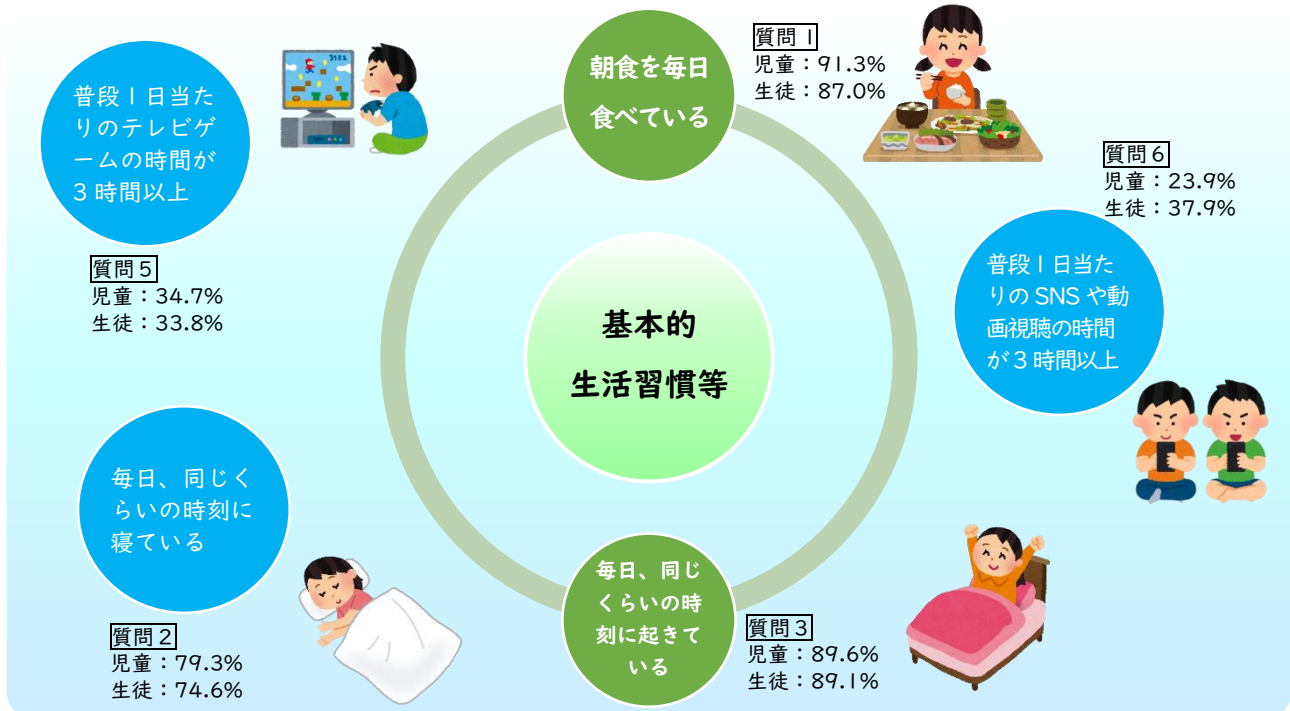
## 充実・改善のヒント

### 思考力、判断力、表現力等

- 図表や写真等を含む説明的な文章を読む際には、示されている図表等が、文章のどの部分と関連しているのかを確認する活動を取り入れる。
- 図表等が文章中にある場合とない場合とを比較し、図表等の効果を考えることを通して、筆者が図表を用いた意図を考える活動を取り入れる。

- 問題解決のために式やグラフをどのように用いればよいのか説明する活動を取り入れる。

## (2) 児童・生徒質問調査の結果について

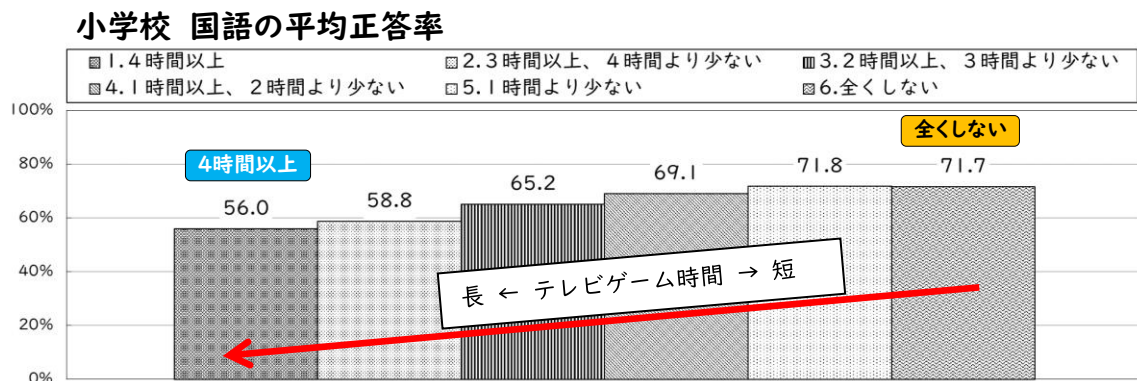


### 【生涯にわたり健康で活力ある生活を送る力】

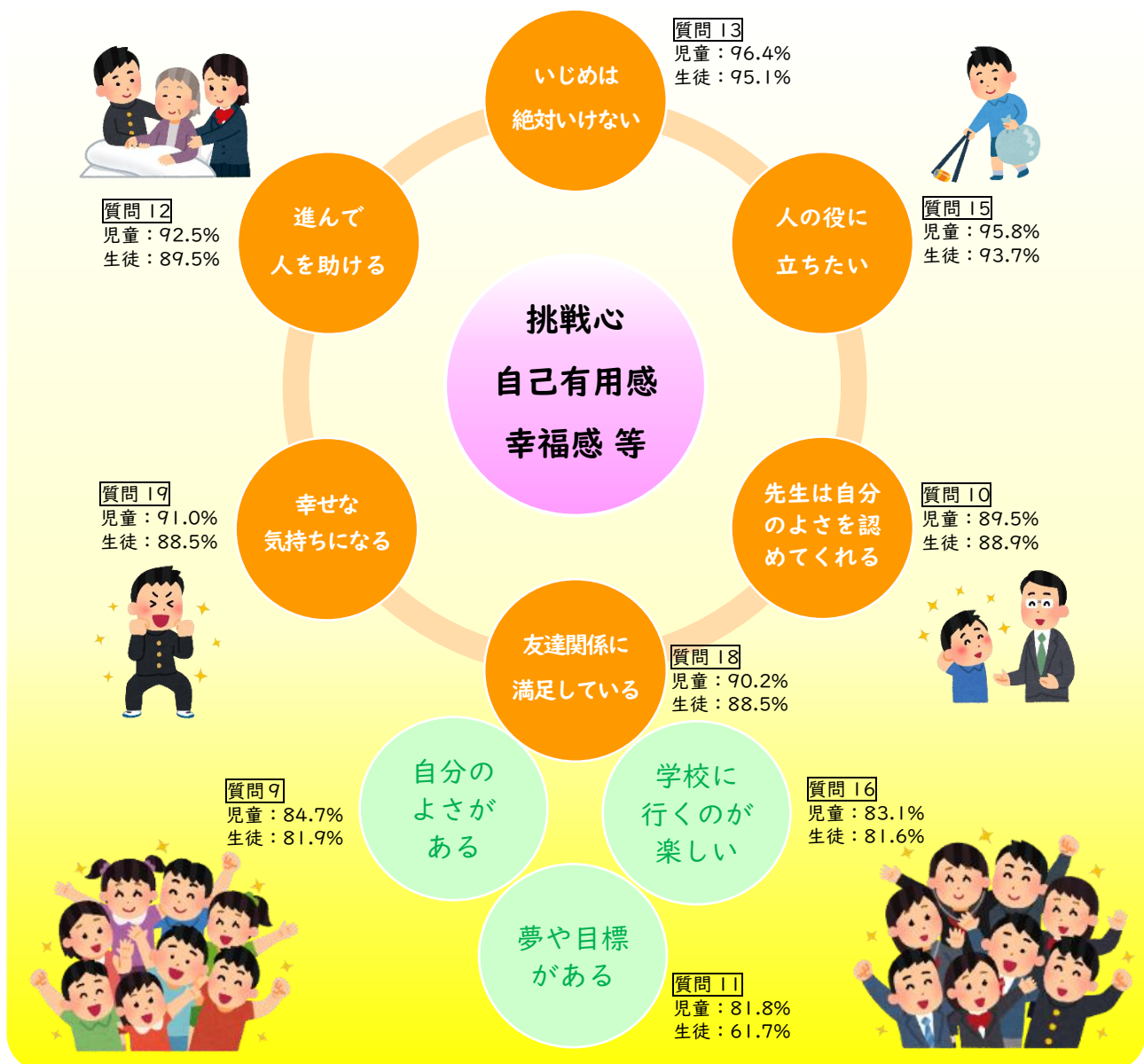
本市では、多くの児童・生徒が、家庭の支えを得ながら、毎日、ほぼ決まった時刻に起き、朝食を食べるという規則正しい生活を送っていると考えられます。

一方で、毎日、同じ時刻に寝ている児童・生徒の回答率は、昨年度に比べて増加していますが、引き続き全国の回答率よりも低い値となっています。また、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をすると回答した児童・生徒の割合は（28ページの質問5参照）、小学校34.7%、中学校33.8%であり、小学校の方が高い回答率となっています。さらに、これらの数値は、引き続き全国平均よりも高い値となっています。児童・生徒質問調査と教科に関する調査のクロス集計から、テレビゲームの時間が長いほど、教科の平均正答率が低くなる傾向があることが分かります。

質問5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。



子どもたちが生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることや、自らの健康状態を把握し、基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えがとても重要になると言えます。

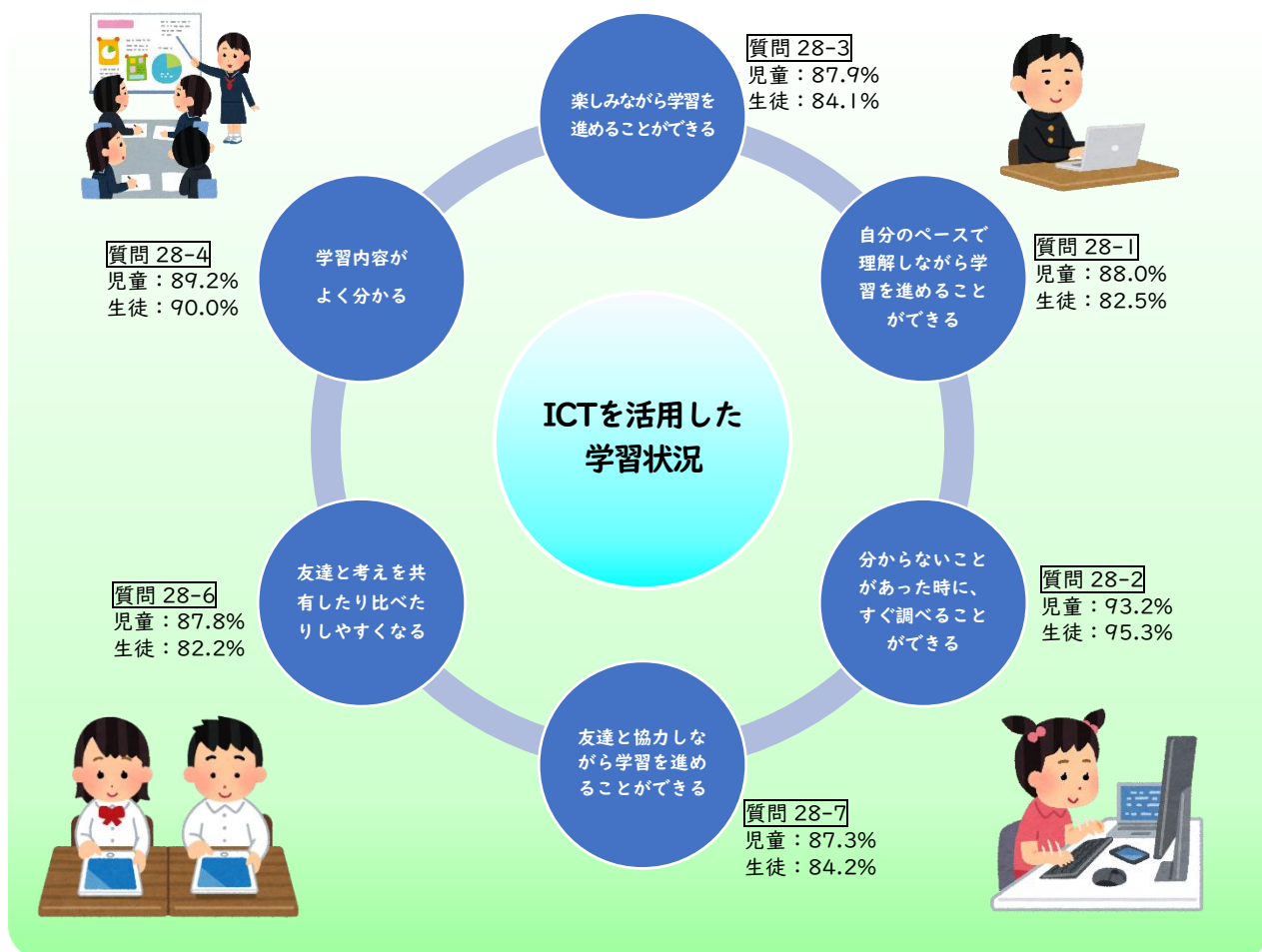


## 【自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力】

本市では、自尊感情が育まれるような学級・学校環境の中で学校生活を送る児童・生徒が多いと考えられます。また、お互いのよさを認め合い、支え合う人間関係づくりが進んでいると考えられます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、児童・生徒の発達の段階に応じた人権教育の充実を図り、あらゆる立場の人がお互いにかげがえのない人として尊重し合い、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められます。

また、変化の激しいこれからの社会において、一人一人の子どもたちが安心して自分の可能性を伸ばし、自立した個人として心豊かにたくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要となります。そのために、家庭での会話を通して、子どもが自分に自信を持ち、多様な課題に対して前向きな気持ちで取り組むことができるよう、子どもが持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自己有用感を高められるような関わりの積み重ねが引き続き求められます。



## 【ICT 機器の積極的な活用】

ICT 機器の活用回数（週3回以上に回答）についての質問（質問 27）では、小学校（5年生までに受けた授業）及び中学校（1、2年生までに受けた授業）ともに全国平均を上回っており、日々の授業の中で児童・生徒が ICT 機器を活用している様子が見えてきます。特に、中学校では活用回数が年々増加傾向にあります。

## 【ICT と児童・生徒との関係性】

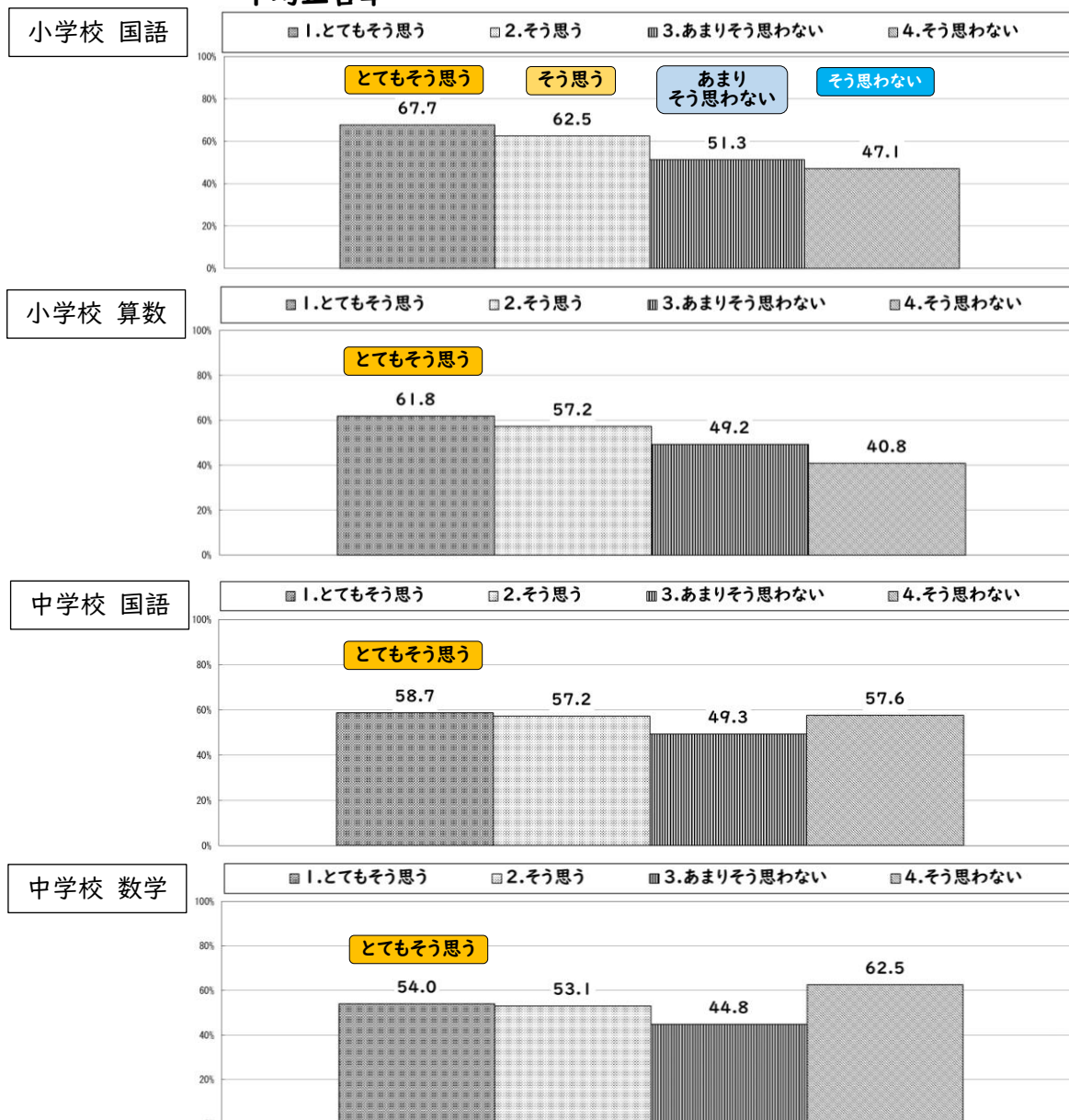
多くの児童・生徒は、学習の中で ICT 機器を活用することについて肯定的に受け止めている様子が見えてきます。

小学校においては、児童が授業のめあてを達成させるための“学習支援ツール”として活用されており、ICT 機器の活用が資質・能力の育成に直接寄与するものと考えられます。

中学校においては、いつでも、どこでも、必要な時に使える筆記用具や辞書、カメラ、コミュニケーションツール、集計・分析ツールなどの“道具”として利用され、この道具を通して集めた情報の活用が生徒の資質・能力の育成に寄与するものと考えられます。したがって、集めた情報を整理、分析することを通して自分の考えを明らかにし、文章等で分かりやすく表現する学習活動を意図的、計画的に設定することが資質・能力の育成にとって重要になると考えられます。

質問 28-2 5年生（1、2年生）までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。  
（2）分からないことがあった時に、すぐに調べることができる。

### 平均正答率



小学校においては、肯定的な回答をしている児童ほど、国語及び算数の平均正答率が高いことが分かります。一方で、中学校においては、小学校のような関係性が弱いことが分かります。